

新しいまちづくりのグランドデザインに関する 関西経済3団体との意見交換会における主な意見

〇めざすべき都市像

- ・海外や府域外への訴求、多様な参画を促すという観点から、ビジュアルも含め見せ方が重要。
- ・「将来イメージ」が重要で、2050年の大阪の全体像みたいなイメージと、拠点や郊外などを示すイメージが最初にあるべき。
- ・人中心を分かりやすく示すためにも、パースやストーリーがあると親近感がわいて理解が進む。
- ・どういうところで価値を創造していくのか、めざすところが共有できるとよい。
Ex.)国際金融都市実現のために必要な機能とは、万博やスーパーシティから導き出せる将来像、SDGsを世界に先駆けて推進、ダイバーシティの実現、バリアフリーの実現など、都市像としてこういうものを作っていくということや、みんなが共感できるまちづくりの方向性を示す。
- ・個々の地域開発の計画が並べられているだけの計画ではなく、ビジョンが共有できることが大事。また、個別エリアのプロジェクトを見せるだけでは、限られた関係者しか関心を示さないのではないか。
- ・これからは、都市のスペックや経済成長よりも、むしろ「いのち輝く」ということに価値が置かれる。命を輝かせるために大阪がどう方向転換していくのかが分かるようバージョンアップしていきたい。
- ・なぜ、「多様な魅力を備えた人中心のまちづくり」をめざすのかの説明が重要。
- ・大阪・関西のGDP国内シェアが低下する中、万博のレガシーをどう実装して、大阪の成長につなげていくのかについても記載してほしい。あわせて国際金融都市や、夢洲まちづくりのコンセプトであるスマートリゾートシティなどとも関連付けられるとよいと思う。
- ・IRを踏まえると、関西だけでなく、西日本の拠点という位置づけがベイエリアには必要。
- ・「東西二極の一極を担う副首都として」は不要ではないか。「新たな価値を創造する大阪」こそ将来像に相応しい。
- ・「東西二極の一極を担う副首都として」との記載があるが、「副首都」をめざすのであれば、その定義を具体的に、わかりやすく提示してほしい。

〇都心部のまちづくり

- ・都心部に関して、全体的にどういうまちにしたいのかを分かりやすく打ち出してほしい。
- ・イノベティブな環境づくりのため、道路、河川、公園、広場、防災空地等のコモンエリア、ハードインフラを柔軟に活用するための大胆な規制緩和を講じてほしい。

・みどりや水辺は都心部でも重要な観点。書きぶりを工夫してほしい。

○南部大阪の活性化

・人口、産業の地域間格差が課題。グレーターミナミ連携会議で活性化策を検討しており、新たなグランドデザインに取り入れてほしい。

○広域連携

・学研都市を新たなモビリティで結ぶなど、未来社会の実験場を広域に展開する視点が必要。

○デジタルの対応

・「多様な魅力を備えた人中心のまちづくりを推進」するためには、テクノロジーを活用してデータを収集・分析し、それをまちづくりに生かしていく視点が重要。スーパーシティの指定を生かし、先端サービスの提供や複数分野間でのデータ連携を可能にする大胆な規制改革を強力に推進すべき。

・デジタルという視点でもまちづくりを考える必要がある。府にて検討中の ORDEN など都市連携基盤を広い範囲で、しっかりまちづくりに活用できるように考えてほしい。

○推進体制

・大阪が持続的な発展を遂げていくためには、国内外から選ばれる国際競争力の強化が不可欠。まちづくり(都市計画)に加えて、まち育て(都市経営)の視点が重要。官(行政)と民(企業や経済団体)の総合力を生かした官民共創スタイルを構築するための検討の場を設けてほしい。

・グランドデザインを実現するため、関わる部局が協力して進められるような推進体制に期待。官民で物事を進める上でのリーダーシップをぜひともお願いしたい。

・各エリアマネジメント団体との連携も今後の課題ではないか。

○ロードマップ

・2050年までの節目節目で目標を設定した方が民間としてまちづくりに参画しやすい。

○その他

・海外アジアとの交流、健康・ウェルネス志向、社会貢献といった考えを追加してほしい。

・若い世代の意見をどう盛り込んでいくのかも考えてほしい。

・メタバースの活用など先進的な取組みも必要でないか。

以上